

# 広島県三次市農業委員会

三次市



【農業委員会の体制】（平成29年4月1日移行）

- 新体制：農業委員19人、農地利用最適化推進委員29人、事務局職員11人（併任7人含む）
- 旧体制：農業委員34人、事務局職員11人（併任7人含む）

## 1 地区の特徴・状況、課題

- 広島県の北中部、中国地方の中心部に位置。耕地面積は5,860ha。うち水田が5,170ha。総農家数は平成27年までの10年間で約3割減り現在4,291戸。販売農家はそれ以上に減少して現2,971戸。農業従事者の平均年齢は平成22年に70歳を超え、平成27年には71.7歳に達した。

## 2 活動の成果

- 農地情報公開システムの地図機能を活用して、営農意向が見える化。地域の農業者と危機感を共有し、人・農地プラン作成の機運を高めた（平成31年3月末時点で36地区がプランを作成）。

## 3 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

【農業委員、推進委員が戸別訪問で意向を把握】

- ① 平成29～30年度、75歳以上の農地所有者（水田3a、畑1a以上）の今後の営農意向を調査。調査対象となった1,224筆（116戸）を農業委員、推進委員がすべて戸別訪問し、1筆ごとの意向を聴き取った。
- ② その結果、約31haの貸し付け意向を掘り越した。
- ③ 貸し付け希望者には、農地情報公開システムで表示した地図を見せて、農地の場所や状況を共有しながら、地代や貸付期間・貸付相手の希望などの詳細な調査も実施。
- ④ 上川立中地域では、集落座談会でも同地図を活用し、人・農地プランの実質化へ近づいている。
- ⑤ 農業委員、推進委員はワークショップ形式の研修会を受講し、今後、地域の声を広く反映する話し合いへ準備を進めている。

【地域の農業者へ呼びかけたこと】

「5年後、10年後の地域の農地を考えてください」

「何もしないと、高齢の農業者が離農し地域農業が持続できません」

「離農する人の農地が、耕作放棄地化する前に担い手に集積する仕組みを考えましょう」

「地域外の担い手に来てもらうには、担い手が管理できるように地域で協力する形を整える必要があります」

「そのためにもまずは地域で話し合いをしましょう」